



クッククック…お嬢さんの
言いたいことはわかりますよ

何故、自分がこんな所で
こんな格好をさせられて
いるか…でしよう？

うううう…
うぐ…

あなたはこれまでに
何人もの男達に
貢がせていたでしよう？

そのせいで
カード地獄に陥った
男が数多くいるのですよ

それでこの
あなたの身体で
払ってもらうことに
したのです

ギョ

さて…これからこの女を
くすぐり奴隷にするための
「くすぐり調教」に入る

うぐ…うぐぐ…!?

お前の家
お前そっくりの遺体を
準備しておいた…
これがどういう
意味かわかるか？

お前の帰る場所は
もう無いということだ

うわっ…

……!

まずはその体を
綺麗にしてやろう

うぐぐー!!

お前とお前は
腋の下の埃を
取ってやれ

そこは特に念入りに
掃除しろよ

お前たちは
足裏を
掃いてやれ

うぐぐぐぐぐ
くくくくく
うぐぐぐぐぐ!

どうだ
埃は取れたか?

まだです

こちらも
まだまだです

そうか
じゃあ徹底的に
掃いてやれ

サウ

サウ

ぷるるん

こしょ

こしょ

こしょ

こしょ

こしょ

こしょ

こしょ

こしょ

ふ

羽だけでは
取れないか…
今度はこれを
使ってみるか

うぐーうぐー!!

ふざけるんじや
ないわよ!

あとで覚えて
なさいよ!

さあ、徹底的に
掃いてやれ

どうだ?
そろそろ奴隷になる
覚悟はできたか?

うぐーうぐー!!
うぐーうぐー!!

だめ…っ
キツすぎる…!!
今はいったん
承諾して…

うぐーうぐー!!

そうか、まだ
ならないか…
仕方ないな

…!?
うぐーうぐー!!

カ
ル

カ
ル

カ
ル

カ
ル

シヤウ
シヤウ
シヤウ

シヤウ
シヤウ

シヤウ
シヤウ

シヤウ
シヤウ

カ
ル
カ
ル

カ
ル
カ
ル

もう…
もういや……

奴隷でも…
奴隷でも何でもなるから…

もうくすぐらないで…

覚悟ができたか
では今から本格的に
くすぐり奴隷になるための
準備を始めよう

奴隷の一番の罪は
主人に対して
反抗することだ

反抗した時の罰を
今から嫌というほど
教え込んでやる



きーんーんーんやっはは
ははははは!!
くすぐりたいいいいいーん!!

いやあああつはつはつ
はつはつはつはつはつはつ
はつはあああーん!!

くっ
くっ

くっ
くっ

くっ
くっ

くっ

くっ
くっ

くっ
くっ

くっ

くっ
くっ

くっ
くっ

くっ
くっ

くっ
くっ

おいおい、さっきまでの
元気はどうしたんだ?

まだまだ誠意が
足りないな

もういやあああつはつ
はつはつはあああーん!!
お願い…お願いいいいいーん!!

助けてええーん!!
くっくっ…苦しいい
いっいーん!!
ひっひっひん!!

くっ
くっ
くっ
くっ

どうだ？
この罰の辛さが
分かったか？

だが、この罰はまだ
終わらないんだ

男達は、麻美が失神する
寸前までくすぐり続け
麻美が失神しそうになると
その手を止めた

そして少し休んだ後、
再びくすぐり始める
のである

男たちはそれを
何度も繰り返した

きゃああつはっ
はっはっはー！！
いやあああつ
はっはっはっ
はー！！

一ちょ
一ちょ

一ちょ
一ちょ
一ちょ

一ちょ
一ちょ
一ちょ

ガウ

ガウ
ガウ

ガウ
ガウ

ガウ

これがくすぐり奴隷の罰だ
失神寸前までくすぐって
少し休ませたあと
また失神寸前までくすぐるんだ

まあ、今回はこの罰の
さわりだけで許してやる

本当の「罰」は、
こんなものじゃすまないぞ

わかった…もう…
わかったわよ…

わ、わかりました…
もう…もう絶対に
反抗しませんから…

いい子だな
これからは気持ちいい事
してやるからな…

少しの休憩の後：
麻美の最も敏感な
3つの突起に
ピンクローターが
取り付けられた

くうううううー！！
ううううううううー！！

いいいいいいー！！
もつと：
もつとおおおー！！

もつとくすぐつてえええ！
もつとコチヨコチヨ
してええええー！！

しかし限界を超えたのか
麻美の中で何かが
壊れたようだった：

おいおい：
奴隷がそんな我が儘を
言うていいと思っ
てるのか？

そんな奴隷に
エクスタシーを
味合わせてやる訳には
いかないな

俺達の気が済むまで、
たっぷりと焦らしに
焦らし抜いてやる

ビクッ
ビクッ

サワ
サワ
サワ
サワ

ググググ
ググググ

ググググ
ググググ

スリ
スリ

サワ
サワ

ビクッ

ググググ
ググググ
ググググ

スリ
スリ

サワ

ビクッ

サワ
サワ

いい格好だな、ん？

おいおい見てみるよ
この女のアレ、
ピクピク痙攣してるぜ

四つん這いにされた
麻美の秘部やアナルを
男達は笑いながら
コチヨコチヨと
くすぐり始めた

くっ...

こちよ

ヒンッ

ヒン♡

ヒン

ひ...あああ...
いや...いや...

こちよ

こちよ

麻美は、今度は2つの最も感じる穴に

ピンクローターを挿入され、
引き続き敏感な「小さな豆」にも
ピンクローターを押しつけられたまま
スキャンティの圧力で
固定されてしまった

クッククック...
気持ちいいのか？

それならもっと
気持ちよく
してやろうな

ブルブル
ブルブル
ブル





さあ、今からたっぷりと
全員のを
しゃぶってもらおうぞ

まるで犬だな
え？

音を立てて男根を
しゃぶっている
麻美を見て、如月は
楽しそうに笑い
ピンクローターの
スイッチの「弱」を
入れた

それにあわせて、男たちは
四つん這いになっている麻美の
両側に陣取り、下向きになっている
豊富な乳房を揉んだり背中や下腹、
それに脇腹をペロペロと
舐め回したり、指で「ちゅ」「ちゅ」と
くすぐったりし始めた

わんわん
わんわん
わんわん
わんわん
わんわん

ぐわんぐわん
ぐわんぐわん
ぐわんぐわん
ぐわんぐわん
ぐわんぐわん

うううう
うううう
うううう
うううう
うううう

びくびく
びくびく
びくびく
びくびく

わんわん
わんわん
わんわん
わんわん

ちゅちゅ
ちゅちゅ

かかかか
かかかか



今日の調教は終わりだ
では、調教の「最後の
挨拶」をして貰おうか

はい……

ご主人様……ご調教いただき……
ありがとうございます……

この次も……私の身体を……
お好きなように……
くすぐり……弄んで下さい……
私は……私はどうなっても
構いません……

これからも……
いつまでも……
精一杯尽くしますので……

どうか……どうか……
一生……可愛がって下さい……
宜しくお願い致します……

次の日——
麻美は如月の言う
「本部」へと移送された

そこで麻美は、来る日も来る日も
見知らぬ男達に、その
すばらしい身体を弄ばれ続けた
のである

やがて、如月を含めた7人
全員の男達が放出した…

いいか、これが
くすぐり奴隷の
「隷属のポーズ」だ

このポーズは
主人の許しがあるまで
絶対に崩してはならない

もし動いたら、息が
止まるまでくすぐって
焦らし続けるからな

そ…そんな…
は、はい…絶対…
絶対動きません…

一、わ、私は…ご主人様の
くすぐり奴隷に…
なることを…誓います…

一、私は…何事であろうとも…
ご主人様に絶対…服従を誓います…

一、私がご主人様に…

反抗した場合は…

ごご主人様がお考えになる…
最も辛い罰を…

その間、如月は
麻美が読むのを
くすぐって妨害した

その度に麻美は
身体をピクピク震わせて
読むのを中断して
しまったためまた最初から
読み直さなければ
ならなかった

麻美はポーズを保ったまま
「くすぐり奴隷誓約書」を
読ませられた

ふる

ふる

がが


がが











如月はどこからか
ロープを持ってくると
麻美が両手を
降ろせないように
器用に縛り上げてしまった

これで良し
今度こそ
本当に死ぬほど
イカせてやるからな

ひいひい!!
いやあああアツアツはっはっ
はははっはっはっはー!!

グアッ
グアッ
グアッ
グアッ
グアッ
グアッ
グアッ
グアッ

ああ…も…
もう…
ご主人様…!!

イキ…イキそうです…
ああ…あはははは…!!

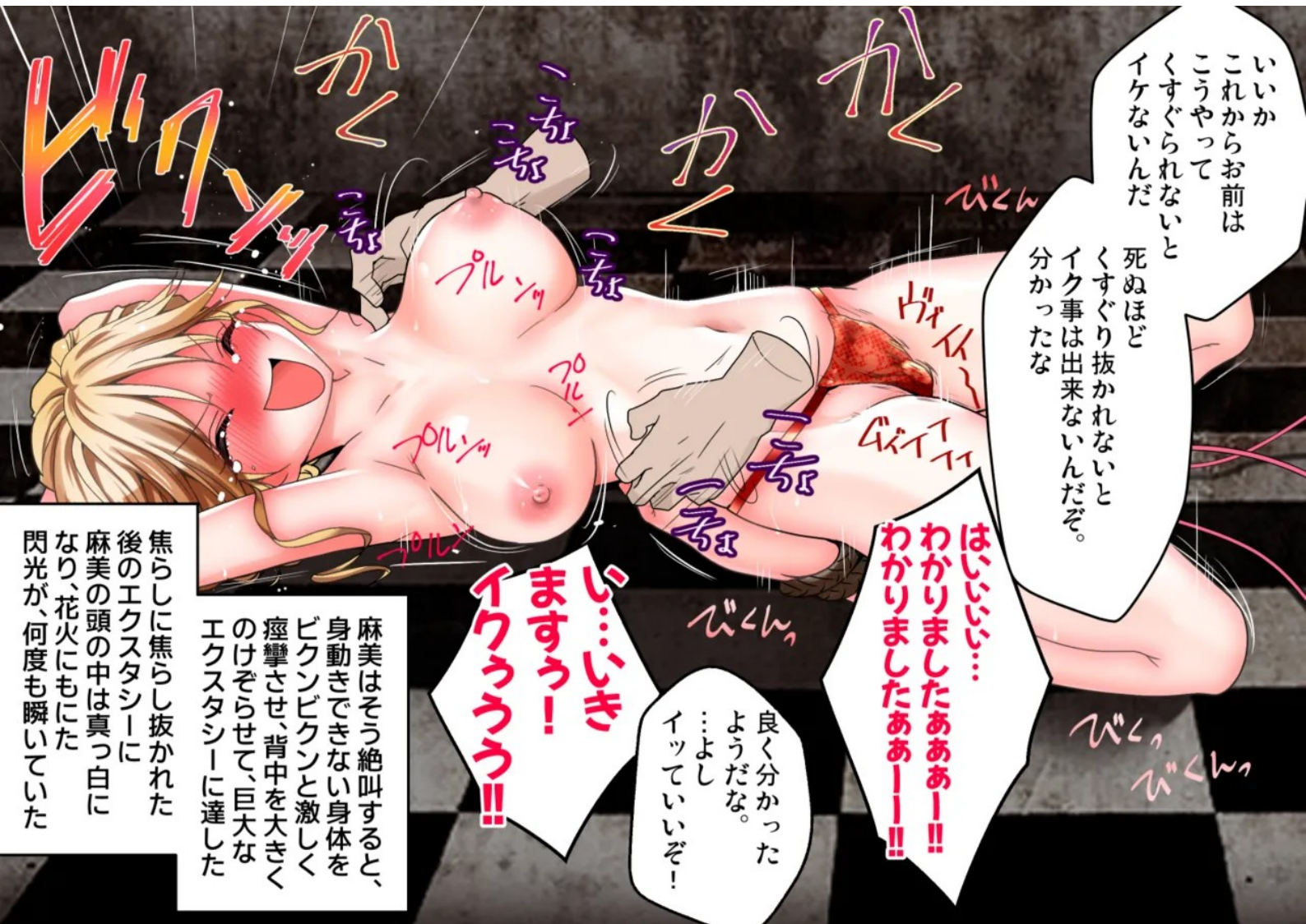
ご主人様…
イッても…イッても
よろしいですか…?

何だ、お前…
イキたくないのか?

如月は意地悪く笑うと
ピンクローターの
スイッチを切った

またもや絶頂寸前で
止められ、麻美は
その辛さに唇を噛んだ





いいか
これからお前は
こうやって
くすぐられないと
イケないんだ
死ぬほど
くすぐり抜かれないと
イク事は出来ないんだぞ。
分かったな

はいはい...
わかりましたああー!!
わかりましたああー!!!

良く分かった
ようだな。
...よし
イッていいぞ!

い...いき
ますう!
イクううう!!!

麻美はそう絶叫すると、
身動きできない身体を
ビクンビクンと激しく
痙攣させ、背中を大きく
のけぞらせて、巨大な
エクスタシーに達した

焦らしに焦らし抜かれた
後のエクスタシーに
麻美の頭の中は真っ白に
なり、花火にも似た
閃光が、何度も瞬いていた

あんなものでは
足りないだろう
今度は6人がかりで
イカせて貰え

イウウウウウ
ウウー!!
イツちゃウウウ
ウウー!!

きやああああ
あつはつはつは!!
いいやああああ
あああああー!!

いや…ああああ
ああつはつはつは
はー!!
苦し…
くわううー!!

再び麻美はたちまち
エクスタシーに達したが
6人の男達のくすぐりも
止まらなかった

麻美は、口元から淫らに
涎を垂れ流しながら
絶叫すると、あまりの
快感のために気を失った

想像を絶する快感の
ために、麻美は何度か
気を失ったが、6人の
男のくすぐりと、
ピンクローターの振動で
覚醒させられ、それから
また、何度も何度も
イカされ続けたのである







